別 紙 3

感染性胃腸炎について

新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課

1　流行状況

○　令和５年第 20 週（５月 15 日～５月 21 日）の定点当たり報告数は全県で 4.98 と、前週の 5.15 に比べ減少しました。

○　社会福祉施設における集団発生も報告されていることから、引き続き十分な注意が必要です。

○　調理や食事の前には十分に手を洗うなど、予防を心がけましょう。

2　感染性胃腸炎とは（原因となる主なウイルス等）

	ノロウイルス	ロタウイルス
主な症状	嘔吐、下痢、腹痛、軽度の発熱など	嘔吐、下痢、腹痛、発熱
潜伏期間	１～２日間（平均 36 時間）	１～３日間（平均 48 時間）
経過	通常、３日以内で回復	通常、嘔吐は１～２日、下痢は１週間程度で回復
流行する世代	全ての世代で発生	乳幼児を中心に流行 まれに成人でも集団発生が起こる
治療	特効薬はありません。乳幼児のロタウイルス感染では重症化することがあります。 嘔吐や下痢で脱水症状を起こしやすいため、水分補給をしましょう。	

3　予防方法

○　石けんを用いた流水による手洗いを徹底しましょう。特に排便後、おむつ交換後、また調理や食事の前には十分に手を洗いましょう。

○　便や吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんを用いた流水で十分に手を洗いましょう。

○　カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。
（中心温度 85～90℃で 90 秒以上の加熱が必要です）

4　学校保健安全法における扱い

○　その他の感染症（第三種感染症として扱う場合もある）と定められています。

○　症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態のよい者は登校（園）可能ですが、手洗いを励行することとされています。

5　県内における胃腸炎患者等から検出された病原体（起因ウイルスの種類と型別）

胃腸炎患者等の病原体検索により検出された胃腸炎起因ウイルスの種類と型別

		胃腸炎の集団発生事例							感染症発生動向調査 患者						
ウイルス検出事例数・患者数		10月	11月	12月	R5/1月	2月	3月	4月	10月	11月	12月	R5/1月	2月	3月	4月
					3		2		2	3	2	2	5	4	2
ウイルス検出数	ノロウイルス合計				21		19				1	1	4	1	2
	（型別） GII. 2														1
	GII. 4				4		12				1	1	4	1	1
	GII. 17				14										
	GII. NT				3		7								
	サポウイルス														
	パレコウイルス														
	アデノウイルス								2	3	1	1	1	3	
	アストロウイルス														

※一事例又は同一患者から複数のウイルス、型の検出あり

【にいがた　食の安全インフォメーション（ノロウイルスによる感染性胃腸炎・食中毒情報】
http://www.fureaikan.net/syokuinfo/01consumer/con02/con02_02/con02_02_05.html